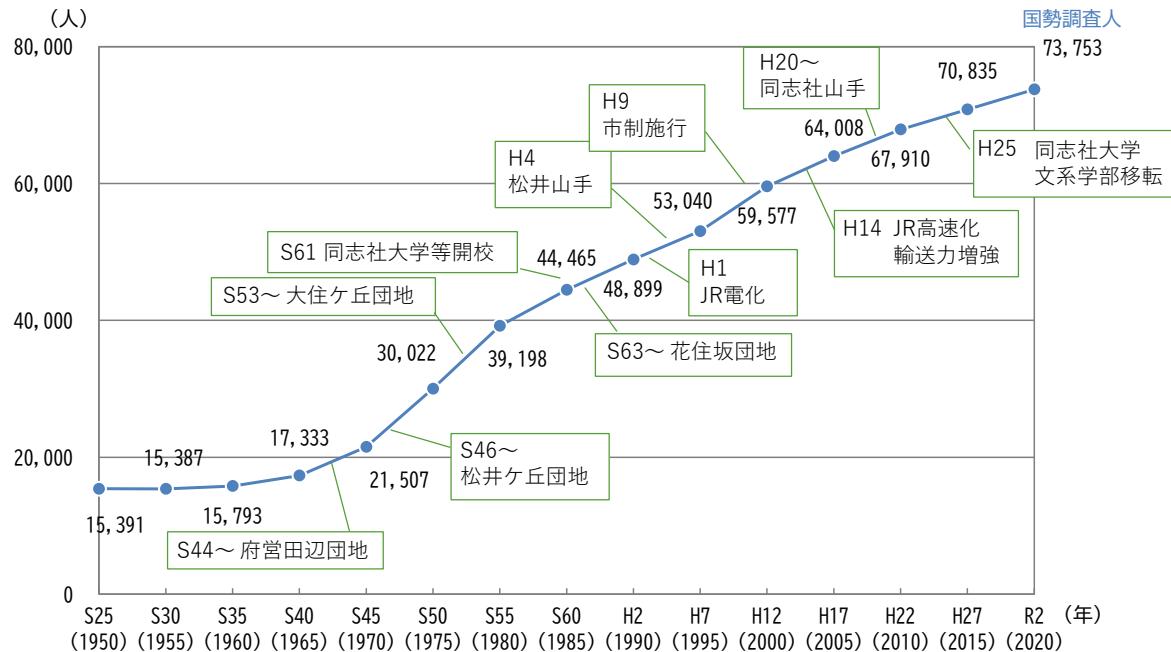


人口動向分析

I. 人口動向に関する分析

1) 長期的な人口の推移

- 本市の人口は、昭和30年(1955)以降一貫して増加しています。
- 令和2年(2020)の実績値は73,753人で、平成27(2015)年よりも2,918人増加しています。

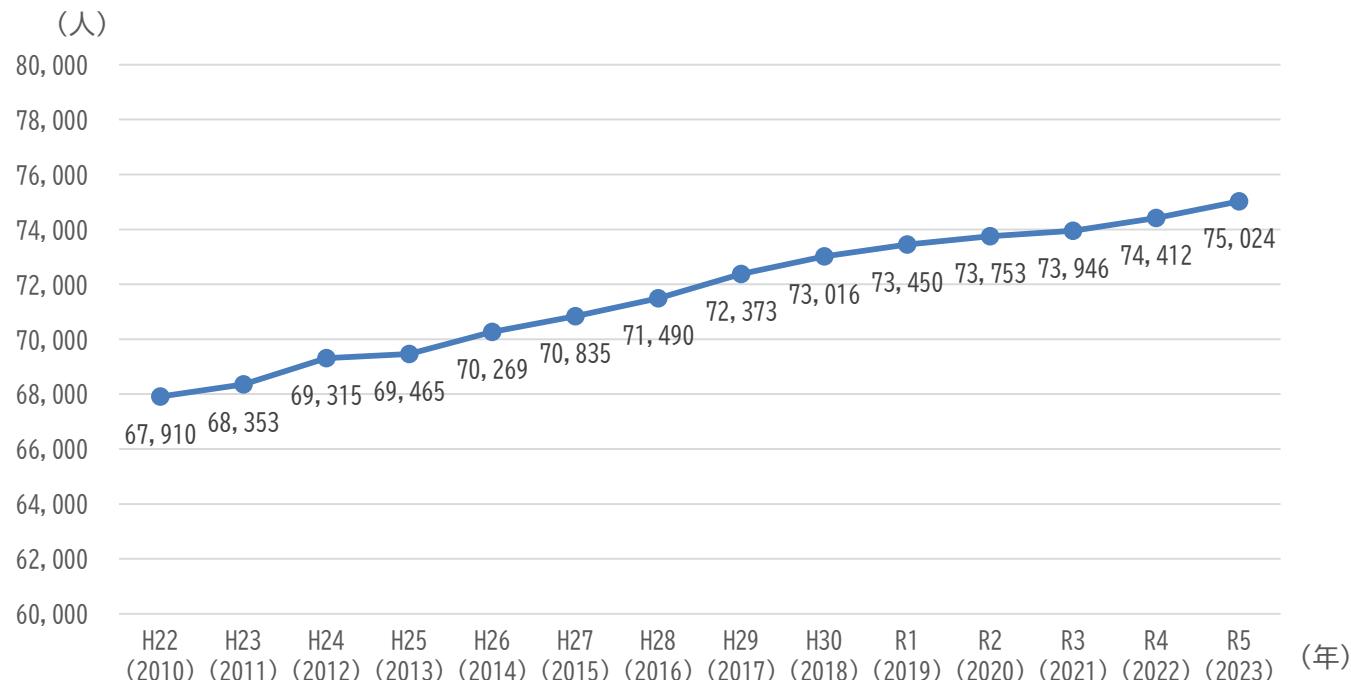


総人口の推移及びまちの出来事 出典：国勢調査

I. 人口動向に関する分析

2) 近年の人口の推移

- 本市の推計人口は、平成27年(2015)の第1期計画策定以降、令和5年(2023)までの間に、70,835人から75,024人へ4,189人増加しています。
- 人口の伸びは、近年やや緩やかになってきています。



近年の推計人口の推移(毎年10月1日時点)

出典:京都府推計人口(国勢調査実施年は国勢調査)

I. 人口動向に関する分析

3) 長期的な年齢3区分別人口の推移

〈年少人口〉

平成7年(1995)までは減少傾向でしたが、その後は増加傾向が続いています。

〈生産年齢人口〉

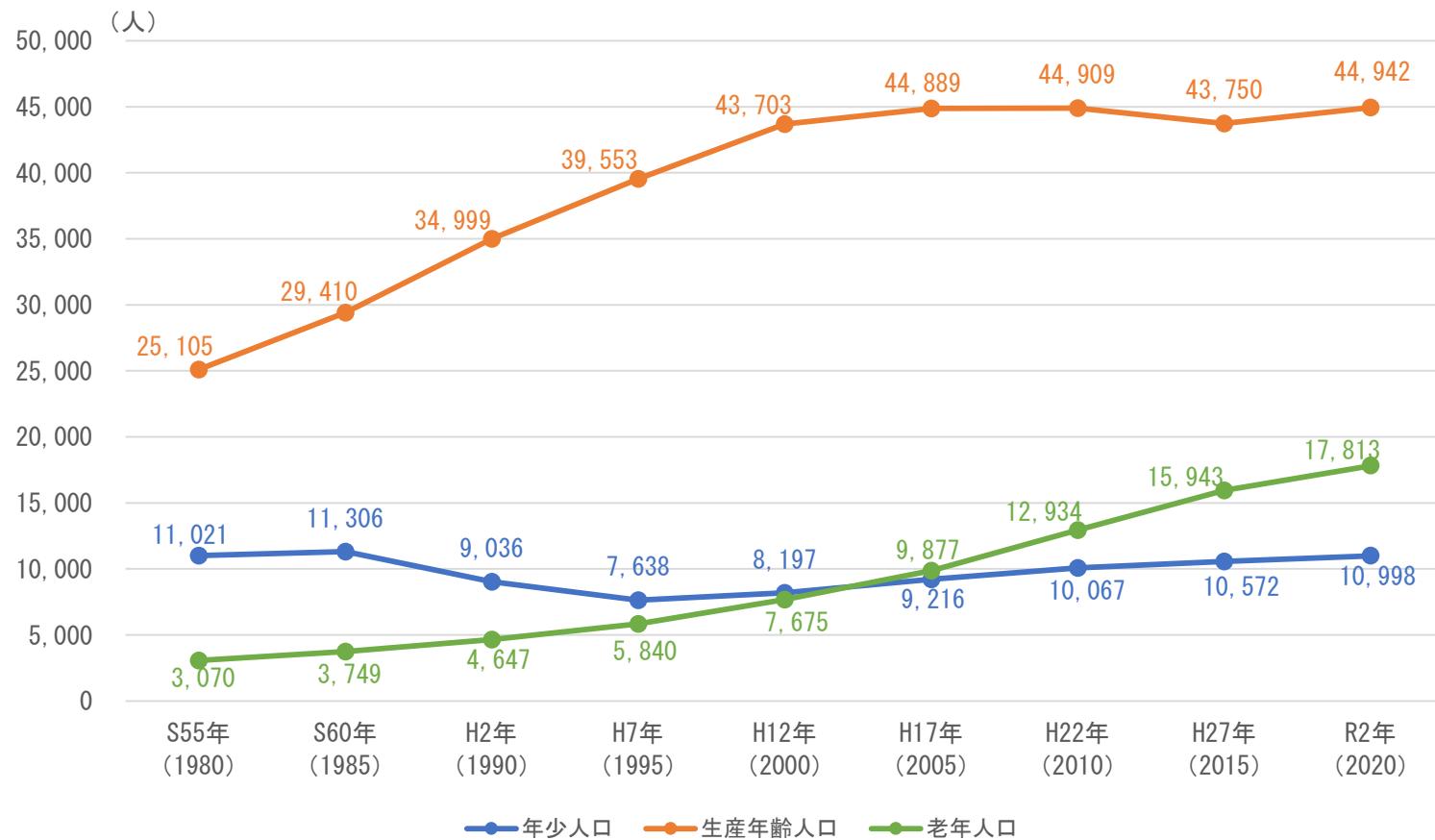
特に平成12年(2000)までは大きく増加し、その後も緩やかな増加傾向にありました。平成22年(2010)から平成27年(2015)にかけては微減しましたが、令和2年(2020)までの期間で再び増加に転じ、平成22年(2010)のピークを上回りました。

〈老人人口〉

増加傾向にありますが、その伸びは、近年、やや緩やかになる傾向が見られます。

I. 人口動向に関する分析

3) 長期的な年齢3区分別人口の推移



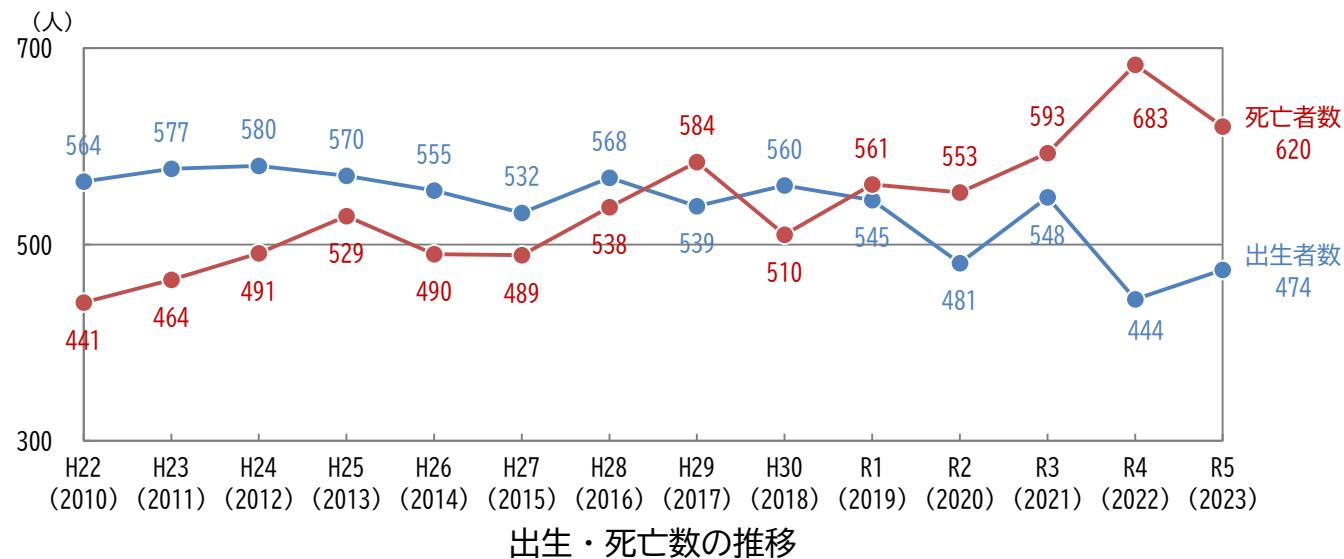
長期的な年齢3区分別人口の推移 出典：国勢調査

I. 人口動向に関する分析

4) 出生・死亡(自然増減)の推移

○出生者数・死亡者数

- 近年は死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状況が続いており、令和5年(2023)の出生者数は474人、死亡者数は620人でした。
- 平成27年(2015)から令和元年(2019)において、出生者数は平均で549人/年、死亡者数は536人/年でしたが、令和2年(2020)から令和5年(2023)において、出生者数は平均で498人/年、死亡者数は602人/年となり、「自然増」から「自然減」へ変化しました。



出典：住民基本台帳人口・世帯数、人口動態（市区町村別）（総計）

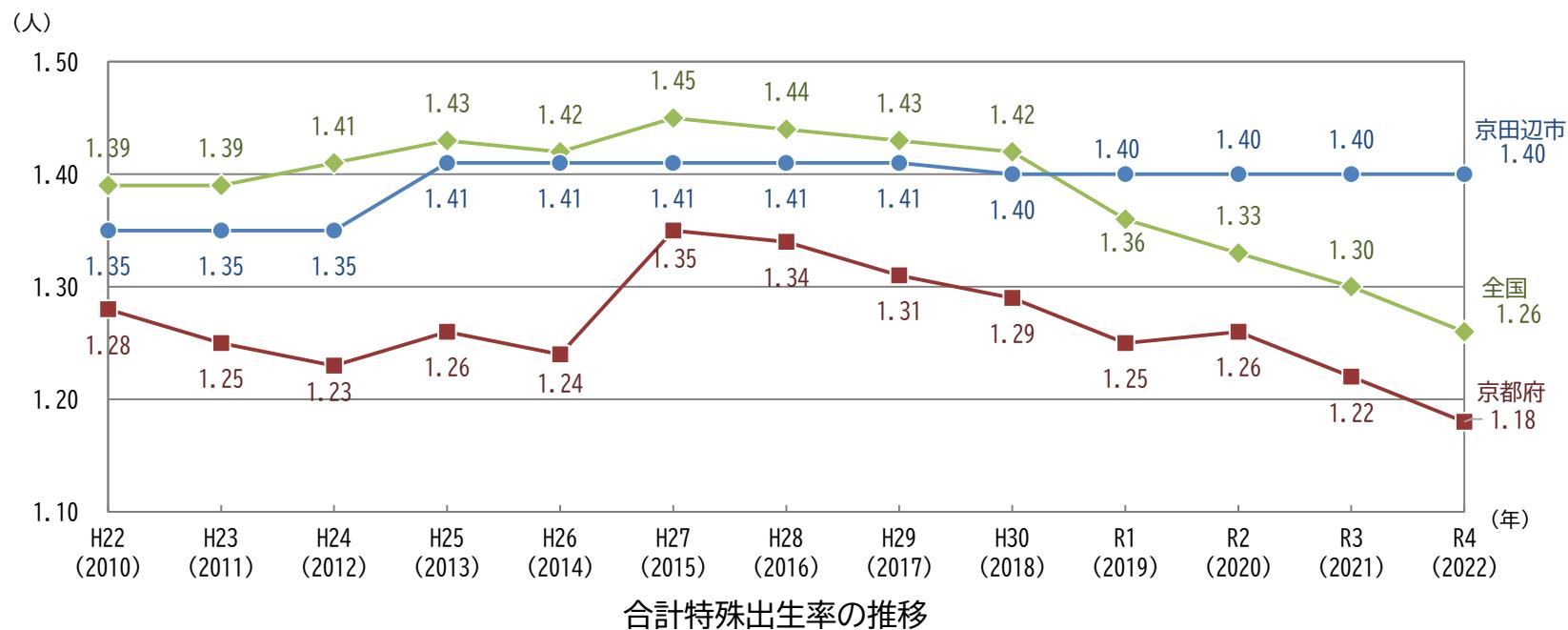
※H23までは年度、H24以降は年で集計

I. 人口動向に関する分析

4) 出生・死亡(自然増減)の推移

○合計特殊出生率

近年の合計特殊出生率は1.40程度で、令和元年(2019)以降は全国平均と京都府平均の値を上回っています。



出典：全国・京都府…令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況(厚生労働省)
京田辺市…平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の概況(厚生労働省)
※全国・都道府県別の数値は毎年集計されますが、市町村の数値は5年に1度、5年間分をまとめて算出されています。

I. 人口動向に関する分析

5) 転入・転出(社会動態)の推移

社会動態では、転入が転出を上回っており、「**社会増**」が続いています。令和5年(2023)は、転入者数が3,489人に、転出者数が2,837人となっています。

○転入者数

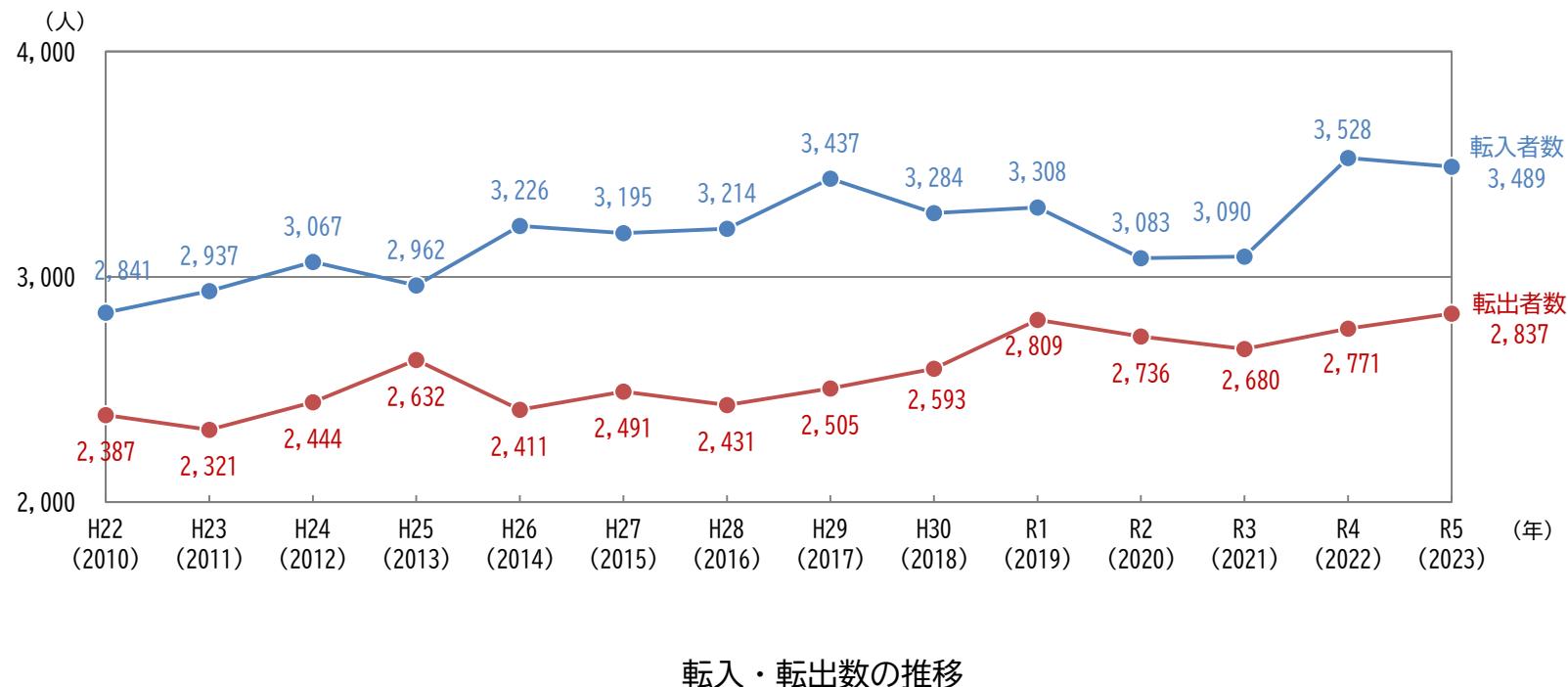
平成27年(2015)から令和元年(2019)にかけては平均で3,288人/年、令和2年(2020)から令和5年(2023)にかけては平均で3,300人/年となっており、**中期的には横ばい傾向**になっていますが、令和4年(2022)には3,528人、令和5年(2023)には3,489人の転入があり、**短期的には増加傾向**にあります。

○転出者数

平成27年(2015)から令和元年(2019)にかけては平均で2,566人/年でしたが、令和2年(2020)から令和5年(2023)にかけては平均で2,767人/年となっており、**増加傾向**にあります。

I. 人口動向に関する分析

5) 転入・転出(社会動態)の推移

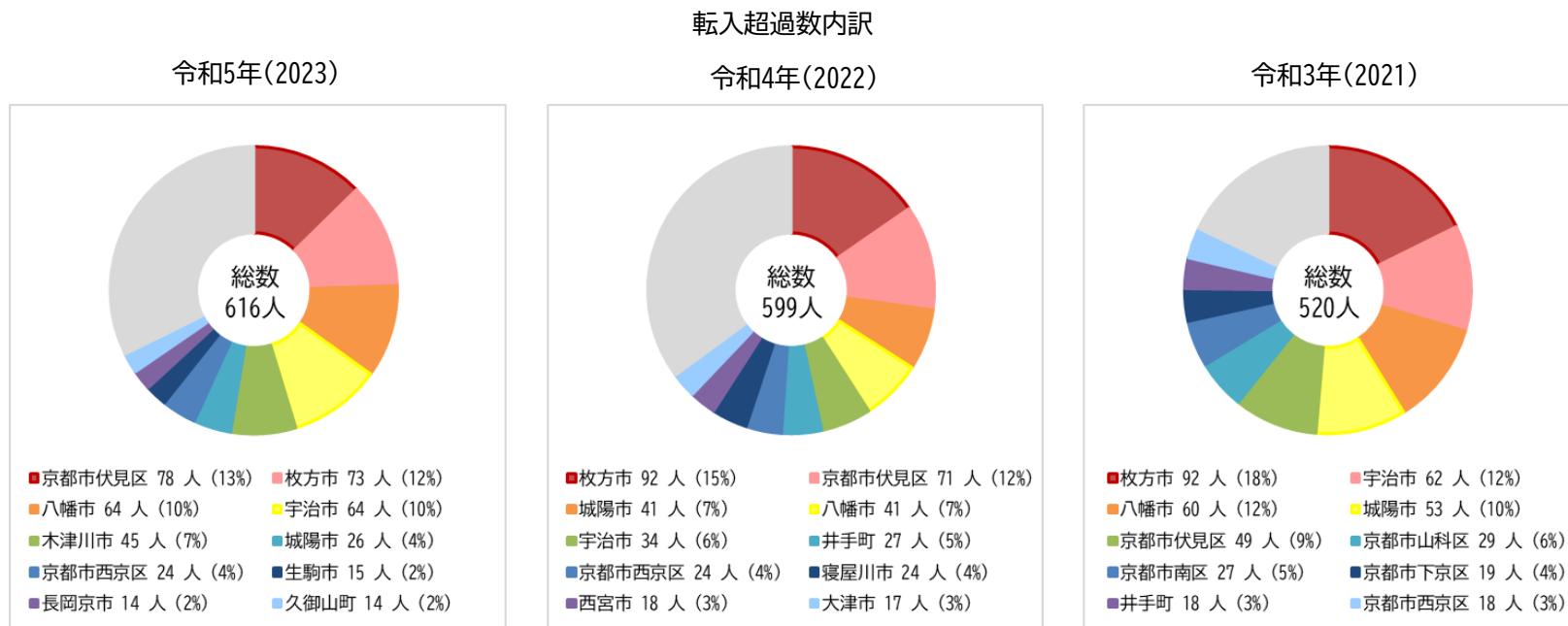


出典：住民基本台帳人口・世帯数、人口動態（市区町村別）（総計）
※H23までは年度、H24以降は年で集計

I. 人口動向に関する分析

6) 地域別の人口移動の状況

- 令和5年(2023)の転入超過数は616人で、地域別に見ると、上位は京都市伏見区、枚方市、八幡市、宇治市、木津川市等となっています。
- 令和4年(2022)の転入超過数は599人で、地域別に見ると、上位は枚方市、京都市伏見区、城陽市、八幡市、宇治市等となっています。
- 令和3年(2021)の転入超過数は520人で、上位は、枚方市、宇治市、八幡市、城陽市、京都市伏見区等となっています。



出典：RESAS

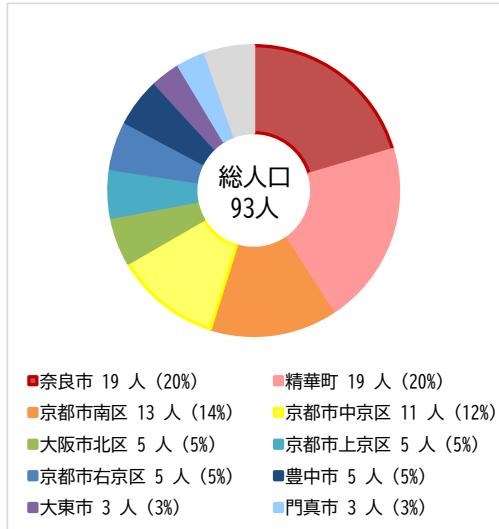
I. 人口動向に関する分析

6) 地域別の人口移動の状況

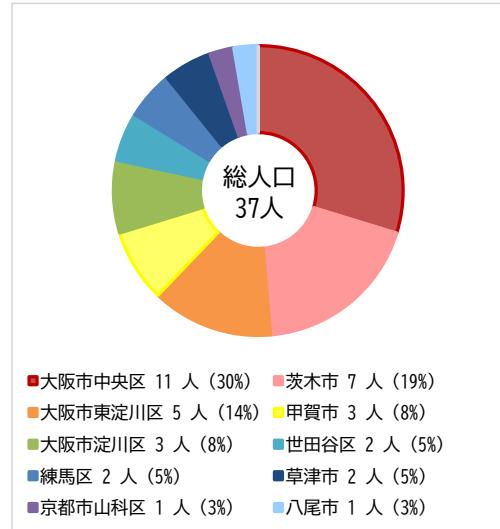
- 令和5年(2023)の転出超過数は93人で、上位は、奈良市、精華町、京都市南区、京都市中央区、大阪市北区等となっています。
- 令和4年(2022)の転出超過数は37人で、上位は、大阪市中央区、茨木市、大阪市東淀川区、甲賀市、大阪市淀川区等となっています。
- 令和3年(2021)の転出超過数は119人で、上位は、精華町、大阪市中央区、木津川市、京都市左京区、東大阪市等となっています。

転出超過数内訳

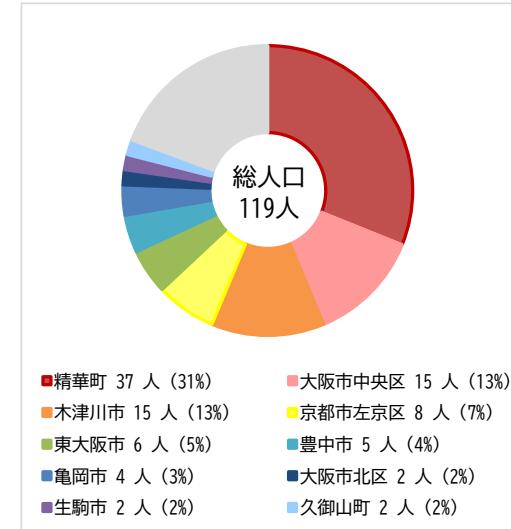
令和5年(2023)



令和4年(2022)



令和3年(2021)



出典：RESAS

I. 人口動向に関する分析

7) 転入超過数と転出超過数の推移

- 平成24年(2012)～平成26年(2014)の3か年を合わせた上位市区町村は、転入では、宇治市、城陽市、枚方市、転出では、京都市上京区、京都市中京区、京都市下京区となっています。
- 平成28年(2016)～平成30年(2018)の3か年を合わせた上位市区町村は、転入では、枚方市、城陽市、八幡市、転出では、精華町、木津川市、大阪市都島区となっています。
- 令和3年(2021)～令和5年(2023)の3か年を合わせた上位市区町村は、転入では、枚方市、京都市伏見区、八幡市となっており、転出先では、精華町、大阪市中央区、京都市中京区となっています。

転入	H24(2012)～H26(2014)		H28(2016)～H30(2018)		R3(2021)～R5(2023)	
1位	宇治市	304	枚方市	268	枚方市	257
2位	城陽市	287	城陽市	234	京都市伏見区	198
3位	枚方市	239	八幡市	233	八幡市	165
4位	京都市伏見区	202	宇治市	217	宇治市	160
5位	八幡市	108	京都市伏見区	136	城陽市	120
転出	H24(2012)～H26(2014)		H28(2016)～H30(2018)		R3(2021)～R5(2023)	
1位	京都市上京区	216	精華町	52	精華町	56
2位	京都市中京区	107	木津川市	49	大阪市中央区	45
3位	京都市下京区	46	大阪市都島区	38	京都市中京区	37
4位	豊中市	32	大阪市中央区	27	大阪市東淀川区	32
5位	吹田市	23	京都市山科区	18	龜岡市	24

転入超過数・転出超過数の比較 出典：RESAS

I. 人口動向に関する分析

7) 転入超過数と転出超過数の推移



平成24年(2012)～平成26年(2014)

I. 人口動向に関する分析

7) 転入超過数と転出超過数の推移



平成28年(2016)～平成30年(2018)

I. 人口動向に関する分析

7) 転入超過数と転出超過数の推移



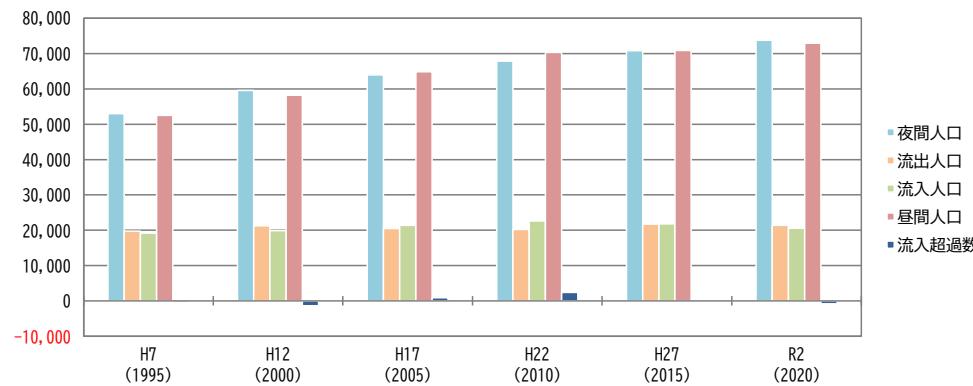
令和3年(2021)～令和5年(2023)

I. 人口動向に関する分析

8)夜間・昼間人口の推移

・昼間人口率は、平成7年(1995)、平成12年(2000)では100以下で、夜間人口よりも昼間人口の方が少なくなっていますが、平成17年(2005)から平成27年では100を超え、昼間人口の方が多いとなっています。令和2年(2020)には再び昼間人口の方が少なくなっています。

区分	H7年(1995)	H12年(2000)	H17年(2005)	H22年(2010)	H27年(2015)	R2年(2020)
夜間人口(A)	53,031	59,575	63,982	67,910	70,835	73,753
流出人口(B)	19,722	21,247	20,494	20,207	21,750	21,362
流入人口(C)	19,226	19,888	21,394	22,631	21,825	20,557
昼間人口(D=A-B+C)	52,535	58,216	64,882	70,334	70,910	72,948
流入超過数(C-B)	△496	△1,359	900	2,424	75	△805
流出率(B/A×100)	37.2	35.7	32.0	29.8	30.7	29.0
流入率(C/A×100)	36.3	33.4	33.4	33.3	30.8	27.9
昼間人口率(D/A×100)	99.1	97.7	101.4	103.6	100.1	98.9



京田辺市の昼間人口・夜間人口の推移 出典：国勢調査

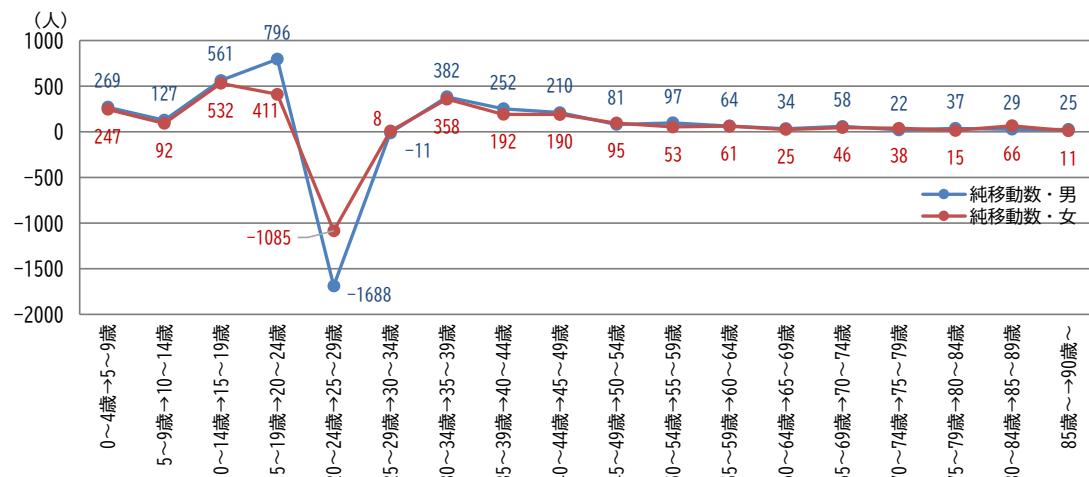
I. 人口動向に関する分析

9) 性別・年齢階級別人口増減の状況(平成27年(2015)⇒令和2年(2020))

平成27年(2015)から令和2年(2020)の性別・年齢階級別人口の増減数※は以下のようになっています。

- <10～14歳→15～19歳> 男561人、女532人の転入超過となっています。
- <15～19歳→20～24歳> 男796人、女411人の転入超過となっています。
- <20～24歳→25～29歳> 男1,688人、女1,085人の転出超過となっています。
- <25～29歳→30～34歳> 男11人の転出超過、女8人の転入超過となっています。
- <30～34歳→35～39歳> 男382人、女358人の転入超過となっています。

* 増減数 = (当該年齢層人口) - (5年前の5歳年少層人口)



平成27年(2015)⇒令和2年(2020)の性別・年齢階級別人口移動 出典：国勢調査